

# 第二回「家老の江戸道中記」

岡本元朝日記の記事から

●「岡本元朝日記 25」 (宝永元年四月七日)

## 【原文】

一七日、天気よし。今日江戸出足いたし候故、親類衆始出入之衆何も被参候故、朝振舞いたし候、人数帳別二候間不記、○四ツ時罷立藤太郎殿へ門出いたし候間、参候て盃事いたし、

○牛嶋へ梅津喜太夫殿・(同藤)馬殿始寺崎清兵衛・岡半太・大(沢七)郎  
 其外出入衆(何れも見送りニ参候、)

△戸嶋へ百姓共出候て(昼)振舞候、

○境村へハ七ツ時に着いたし候、

○去朔日江戸出足之御飛脚に、今日御所野にて逢候、江戸替事無之由申候、

(中略)

○午時、梅津喜太夫(同藤)馬殿始

寺崎清兵衛(兵衛)馬殿始(沢七)

其外出入衆(何も見送りニ参候)

△戸嶋へ百姓共出候て(昼)振舞

○境村へハ七ツ時に着いたし候、

○去朔日江戸出足之御飛脚に、今日御所野にて逢候、江戸替事無之由申候、

御所野にて逢候、江戸替事無之由申候、

## 【解読文】

一七日、天気よし、○今日江戸出足いたし候故、親類衆始出入之衆何も被参候故、朝振舞いたし候、人数帳別二候間不記、○四ツ時罷立藤太郎殿へ門出いたし候間、参候て盃事いたし、

○牛嶋へ梅津喜太夫殿・(同藤)馬殿始寺崎清兵衛・岡半太・大(沢七)郎  
 其外出入衆(何れも見送りニ参候、)

△戸嶋へ百姓共出候て(昼)振舞候、

○境村へハ七ツ時に着いたし候、

○去朔日江戸出足之御飛脚に、今日御所野にて逢候、江戸替事無之由申候、

●「岡本元朝日記25」 (宝永元年四月八日・九日)

【原文】

一八日丁未卯ノ半刻以前境村罷立候也  
○神宮寺村、昼時着候なり  
荻和野村町、夜は給子も和系、二道食  
煮、三膳り、うろ物重、入膳一ツ持系  
し、せき、並、至食、し、し、し  
○し、せき、並、至食、し、し、し

【解説文】

一八日、天気よし、卯ノ半刻以前境村罷立候也、

○神宮寺村へ昼時着候なり、

荻和野村町二居候治部子共和兵衛ニこわ食・煎さい・塩引・かうノ物重へ入  
鱒一ツ持参いたさせ候、直々昼食ニいたし候、

○今晚六郷村へハツ時着候也、

【原文】

一九日丁未卯ノ上刻六郷罷立候也  
○金沢八まん腹来日給、見物し、し、し  
○(昼)傍、手前郷村にて腹来、百、手前郷村  
私、手前郷村にて腹来、百、手前郷村  
湯、一、宿、いたし候故、淡路殿にて御料理被下候

【解説文】

一九日、天気よし、○卯ノ上刻六郷罷立候、

○金沢八まん随求同前二見物いたし候、

○昼横手前郷村にて随求へ百姓共振舞候故、我等市郎右衛門同前二立寄候也、

○今晚湯沢一宿いたし候故、淡路殿にて御料理被下候

【原文】

一十日、天気よし。卯刻罷立候、昨晚半右衛門殿院内銀山巡見候て  
陰日銀山巡候て湯沢二宿に於て此書  
通る方より申すに、此書は物語に  
去月年号改宝永元年、  
久保田より申すに、

○大山因幡殿方熊皮一枚、鯨ひらき一ツ被下候、○及位村にて昼休いたし、  
金山一宿いたし候。

【解説文】

一十日、天気よし、○卯刻罷立候、昨晚半右衛門殿院内銀山巡見候て  
湯沢二宿被成候、昨夜八遅候間不参候故立寄得御意候、御物語には  
去月年号改宝永元年二成候よし久保田方申来候旨御申候、

○大山因幡殿方熊皮一枚・鯨ひらき一ツ被下候、○及位村にて昼休いたし、  
今晚金山一宿いたし候、

●「岡本元朝日記25」 (宝永元年四月十一～二十一日)

【原文】

●四月十一日  
金山 ↓ 舟形 ↓ 尾花沢 ↓ 六田

●四月十三日

山形 ↓ 常良村之茶屋

※1

味田と滑津之間 ↓ 関 ↓ 小坂

●四月十四日

●四月十五日

福内 ↓ 二本松 ↓ 郡山 ↓ 矢吹

※2

●四月十六日

●四月十七日

白川 ↓ 境山村茶屋 ↓ 太田原

●四月十八日

●四月十九日

喜連川 ↓ 宇都宮 ↓ 金井 ↓ 古河

●四月二十日

●四月二十一日

粕壁 ↓ 越貝 ↓ 草荷 ↓ 千寿

江戸

【解説】

金山 舟形 尾花沢 六田

山形 ならけ(檜下)之茶屋

峠田と滑津之間 関 小坂

福嶋(島) 二本松 郡山 矢吹

白川(河) 境ノ明神茶屋 太(大) 田原

喜連川 宇都宮 金井 古河

粕壁(春日部) 越貝(越谷) 草荷(草加) 千寿(千住)

江戸

●「岡本元朝日記25」 (宝永元年四月十三日・十五日)

※1 (四月十三日・支配目付からの情報)

【原文】

○峠田と滑津之間にて支配御目付之山形伊右衛門と土肥形右衛門、  
山形伊右衛門は土肥形右衛門より先立りて、  
逢へし江戸へ暫くもて申上候事、  
十日申上りて申上候事、

【解説文】

○峠田と滑津之間にて支配御目付之山形伊右衛門と土肥形右衛門、  
江戸へ罷下り候二逢候也、江戸替事無之由、道中須ヶ川当十日夜火事にて  
大方焼候由申候、

※2 (四月十五日晚・郡山の宿にて飛脚からの情報)

【原文】

○と飛脚申上り候事、  
去十三日江戸出足  
候事、  
御屋敷様当十二日夜御逝去被遊候よし申候、

【解説文】

○今晚宿へ去十三日江戸出足之御飛脚申上り候事、御屋敷御無事之由、  
鶴姫君様当十二日夜御逝去被遊候よし申候、